

## 基本計画書

基本計画											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	大学院の設置										
フリガナ設置者	ガッコウホウジン アカツキガクエン 学校法人 暁学園										
フリガナ大学の名称	ヨッカイチカンゴイリョウダイガクダイガクイン 四日市看護医療大学大学院 [The Graduate School of Nursing, Yokkaichi Nursing and Medical Care University]										
大学本部の位置	三重県四日市市萱生町 1200 番地										
大学の目的	看護医療分野に関する学術の理論及び応用を教授研究し、深い学識及び卓越した能力を培い、看護学及び医療科学の発展と地域社会における人々の健康と福祉の向上に寄与することを目的とする。										
新設学部等の目的	生命の尊厳と深い人間理解に基づいた看護実践能力を培い、看護医療分野でリーダーシップを担う高度専門職業人並びに高度な専門知識を備えた教育・研究者を養成することを目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Master's Program in Nursing]  計	年  2	人  10	年次 人	人  20	修士(看護学)	年 月 第 年次 平成 23 年 4 月 第 1 年次	三重県四日市市萱生町 1200 番地			
【基礎となる学部】看護学部看護学科 14 条特例の実施											
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
看護学研究科看護学専攻		33 科目	16 科目	3 科目	52 科目	30 単位					
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員		
				教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設分	看護学研究科 看護学専攻（修士課程）			12 人 (12)	10 人 (10)	0 人 (0)	0 人 (0)	22 人 (22)	0 人 (0)	11 人 (10)
		計			12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	11 (10)
	既設分	該当なし			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
合計				12 人 (12)	10 人 (10)	0 人 (0)	0 人 (0)	22 人 (22)	0 人 (0)	11 人 (10)	
教員以外の職員の概要	職 種			専 任		兼 任		計			
	事務職員			15 人 (15)		0 人 (0)		15 人 (15)			
	技術職員			2 (2)		0 (0)		2 (2)			
	図書館専門職員			2 (2)		0 (0)		2 (2)			
	その他の職員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計			19 (19)		0 (0)		19 (19)			
大学全体											

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			運動場用地のうち 24,000㎡は四日市 大学と共用 借用面積 25,093.98㎡、借用 期間12年			
	校 舎 敷 地	15,468㎡	0㎡	35,503㎡	50,971㎡						
	運 動 場 用 地	0㎡	24,000㎡	13,826.88㎡	37,826.88㎡						
	小 計	15,468㎡	24,000㎡	49,329.88㎡	88,797.88㎡						
	そ の 他	0㎡	0㎡	49,570.1㎡	49,570.1㎡						
合 計	15,468㎡	24,000㎡	98,899.98㎡	138,367.98㎡							
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			食堂、体育館、 クラブハウスは 四日市大学と共 用			
		11,236.35㎡ (11,236.35㎡)	4,393.12㎡ (4,393.12㎡)	16,214.28㎡ (16,214.28㎡)	31,843.75㎡ (31,843.75㎡)						
教 室 等	講 義 室	演 習 室	実 験 実 習 室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体での 共用			
	15室	14室	4室	2室 (補助職員 1人)	1室 (補助職員 1人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数						
		看護学研究科			56室						
設 備 ・ 図 書	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点				
	看護学研究科	11,847[1,887] (11,217[1,717])	105[23] (101[22])	5[4] (5[4])	309 (309)	4,425 (4,208)	55 (55)				
	計	11,847[1,887] (11,217[1,717])	105[23] (101[22])	5[4] (5[4])	309 (309)	4,425 (4,208)	55 (55)				
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体(体育 館は四日市大 学と共用)			
		886㎡		80		100,000冊					
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要							
		2,576㎡		該 当 な し							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当たり研究費等		480千円	480千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
		共同研究費		1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
		図書購入費	3,000千円	500千円	500千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	設備購入費	7,184千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,100千円	900千円	－千円	－千円	－千円	－千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入等を充当する。								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	四日市看護医療大学								三重県四日 市市萱生町 1200番地  *現代ビジネス 学科、社会環 境デザイン学 科は平成20年 度4月より募 集停止	
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地		
	看護学部 看護学科	年	人	年次 3年次 10	人	学士(看護学)	倍 1.16	平成19年	三重県四日 市市萱生町 1200番地		
	大 学 の 名 称	四日市大学									
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度			
	経済学部 経済学科	年	人	年次 人	人	学士(経済)	倍 0.72	昭和63年			
	経営学科	4	50		210	学士(経営)	1.06	昭和63年			
	現代ビジネス学科	4	—		—	学士(経営)	—	平成17年			
	環境情報学部 環境情報学科	4	60		260	学士(環境情報)	0.80	平成9年			
	メディアコミュニケーション学科	4	40		160	学士(環境情報)	0.62	平成16年			
社会環境デザイン学科	4	—		—	学士(環境情報)	—	平成18年				
総合政策学部 総合政策学科	4	70		280	学士(総合政策)	0.99	平成13年				
附 属 施 設 の 概 要	該 当 な し										

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通科目	看護理論	1前	2			○			1							
	看護研究特論	1前	2			○			2							
	看護教育学特論	1前		2		○				1				兼1	オムニバス	
	コンサルテーション論	1後		2		○								兼1	集中	
	看護管理学特論	1後		2		○								兼1	集中	
	看護政策論	1後		1		○								兼2	オムニバス・集中	
	看護倫理	1前		2		○			1							
	地域政策論	1前		1		○								兼1	集中	
	在宅看護学特論	1後		2		○				1						
	リスクマネジメント特論	1後		1		○								兼1	集中	
	人間関係特論	1前		2		○			1							
	国際看護学特論	1後		1		○								兼1	集中	
	産業看護学序論	1前		2		○			1							
小計(13科目)		-	6	16	0	-	-	-	6	2	0	0	0	兼7		
産業看護学領域	産業看護学特論Ⅰ(産業看護概論)	1前		2		○			1	1					オムニバス	
	産業看護学特論Ⅱ(労働経済序論)	1前		2		○			1	1				兼1	オムニバス	
	産業看護学演習Ⅰ(産業保健基礎科学)	1前		2			○		1	1					共同担当	
	産業看護学演習Ⅱ(産業看護技術論)	1後		2			○		1	1					共同担当	
	産業精神看護学特論Ⅰ(産業・精神保健)	1前		2		○			1	1					共同担当	
	産業精神看護学特論Ⅱ(援助論)	1後		2		○			1	1					共同担当	
	産業精神看護学演習Ⅰ(アセスメント)	1前		2			○		1	1					共同担当	
	産業精神看護学演習Ⅱ(看護介入)	1後		2			○		1	1					共同担当	
	小計(8科目)		-	0	16	0	-	-	-	2	2	0	0	0	兼1	
実践看護学領域	母子支援看護学特論Ⅰ(子どもと家族の発達理論)	1前		2		○			1							
	母子支援看護学特論Ⅱ(ヘルスアセスメント・支援論)	1前		2		○			4						オムニバス	
	母子支援看護学特論Ⅲ(養育不全と家族支援論)	1後		2		○			2						オムニバス	
	母子支援看護学特論Ⅳ(母子保健・福祉)	1後		2		○			3						オムニバス及び共同担当	
	母子支援看護学演習Ⅰ(支援技術論)	1前		2			○		4	3					共同担当	
	母子支援看護学演習Ⅱ(研究方法)	1後		2			○		4	3					共同担当	
	母子支援看護学実習	2前		6				○	2	1					共同担当	
	急性看護学特論Ⅰ(危機理論)	1前		2		○			1	1					共同担当	
	急性看護学特論Ⅱ(フィジカルアセスメント)	1前		2		○			1	1					共同担当	
	急性看護学特論Ⅲ(代謝病態生理と治療管理)	1後		2		○			1	1					兼2	オムニバス及び共同担当
	急性看護学特論Ⅳ(援助関係論・家族援助論)	1後		2		○			1	1					共同担当	
	急性看護学演習Ⅰ(看護援助論・倫理的調整)	1前		2			○		1	1					共同担当	
	急性看護学演習Ⅱ(安楽・緩和ケア援助論)	1後		2			○		1	1					共同担当	
	急性看護学実習	2前		6				○	1	1					兼1	共同担当
	慢性看護学特論Ⅰ(総合的理解)	1前		2		○			1	1						
	慢性看護学特論Ⅱ(心理・行動的理解)	1前		2		○			1	1						
	慢性看護学特論Ⅲ(体制や制度)	1後		2		○			1							
	慢性看護学特論Ⅳ(環境調整整備)	1後		2		○			1							
	慢性看護学演習Ⅰ(慢性病人のアセスメント)	1前		2			○		1	1					共同担当	
	慢性看護学演習Ⅱ(支援技術)	1後		2			○		1	1					共同担当	
	慢性看護学実習	2前		6				○	1	1					共同担当	
	老年看護学特論Ⅰ(老年看護学の専門性)	1前		2		○			1							
	老年看護学特論Ⅱ(老年看護学の実践)	1後		2		○			1							
老年看護学演習Ⅰ(高齢者への看護介入)	1前		2			○		1								
老年看護学演習Ⅱ(老年看護学の研究法)	1後		2			○		1								
小計(25科目)		-	0	62	0	-	-	-	7	5	0	0	0	兼3		
基礎看護学領域	基礎看護学特論Ⅰ(看護実践学の特質・看護の本質・対象)	1前		2		○			1							
	基礎看護学特論Ⅱ(看護の諸活動と専門性・看護技術教育)	1後		2		○			1							
	基礎看護学演習Ⅰ(看護の特質に関する文献検討)	1前		2			○		1	1					共同担当	
	基礎看護学演習Ⅱ(看護の諸活動・看護技術教育に関する文献検討)	1後		2			○		1	1					共同担当	
小計(4科目)		-	0	8	0	-	-	-	1	1	0	0	0	0		
課題研究	2通		2			○			3							
特別研究	2通		6			○			12	8						
小計(2科目)		-	0	8	0	-	-	-	12	8	0	0	0	0		
合計(52科目)		-	6	110	0	-	-	-	12	10	0	0	0	兼11		
学位又は称号	修士(看護学)				学位又は学科の分野				保健衛生学							
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
修士論文コースは、共通科目から必修科目6単位を含め16単位以上、専門科目の中から8単位以上、特別研究6単位を修得し、30単位以上修得すること。 専門看護師(CNS)コースは、共通科目から必修科目6単位を含め10単位以上、専門領域の中から18単位、課題研究2単位を修得し、30単位以上修得すること。						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	看護理論	卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論や看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深めるために必要な知識を修得する。さらに、理論あるいは看護理論とは何かを、時代や社会との関係の中でその意味や意義について教授し、健康を増進するために適切な理論について、また異なる文化に理論を適用する課題について理解を深める。	
	看護研究特論	(概要) 看護を研究する上での特殊性・倫理性を理解し、妥当で信頼性の高い量的・質的研究のプロセスの概要について理解する。自らの、関心領域の文献を系統的検索・検討(レビュー)をする。 専門知識・技術の向上や開発を図るための実践の場における研究活動に必要な分野を越えて共通する知識を修得する。 (オムニバス方式全15回) (2 鈴木敦子/5回) 看護研究における研究の役割とあり方について講義する。また、質的研究に関し、その特徴と長所・短所、種類、研究者の倫理的責任、データ収集・分析方法及び結果の表し方と考察の方法、クリティックの視点と方法について講義する。 (11 内藤雅子/10回) 研究過程の概説と各過程の具体的方法、研究倫理や評価、研究計画書の考え方と作成方法について講義する。また、量的研究デザインに関し、その特徴と長所・短所、種類、研究者の倫理的責任、データ収集・分析方法及び結果の表し方と考察の方法、クリティックの視点と方法について講義する。	オムニバス方式
	看護教育学特論	(概要) 我が国の看護教育制度の変遷と現状を理解し、また諸外国の看護教育の現状も概観した上で看護教育の今日的課題を探究し、今後の方向性を見出すための討論を行う。さらに、看護学の教育課程・教育組織、教育方法、研究の特徴について学び、カリキュラムの構築と評価、学習プログラムの開発と評価、学修効果を高めるための学修方略について理解を深める。看護の教育的機能、卒業後の組織的な現任教育、継続教育、教育倫理について基礎的な知識を修得し、質のよい看護実践のための看護教育の方向性について検討する。 (オムニバス方式 全15回) (20 小笠原ゆかり/12回) 看護教育の歴史的変遷、現状を学び、課題、今後の方向性を見出ししていく。また実際に、グループワークを通して、カリキュラムの構築・評価、学習方略についての理解を深める。 (21 檜木野裕美/3回) 看護の教育的機能、卒業後の組織的な現任教育、継続教育、教育倫理について学び、看護実践のための看護教育の方向性を検討する。	オムニバス方式
	コンサルテーション論	コンサルテーションの概念、機能と役割、その過程におけるダイナミクス、高度な看護実践におけるコンサルテーションの活動を展開する実践的な能力を修得する。保健・医療・福祉を総合した保健サービスを効果的に展開するために必要なコンサルテーションの重要性と実践的技法について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護管理学特論	保健医療福祉に携わる人々の間の調整を行ったり、看護管理に携わる看護職と協力して専門看護師としての仕事ができるために必要な知識を修得する。個人と組織を統合するための管理の基礎的知識である組織理論、管理過程、権限、意思決定、コミュニケーション、キャリア開発・発達など看護管理機能に関する基礎的理論を概観する。さらに、保健・医療・福祉の各組織において、看護管理者として看護サービスの質に影響を及ぼす現状の諸問題の分析、個人と組織の統合、組織変革を図る実践手法について、事例を通して探究する。加えて、看護の質向上を図るための評価システムと方法、看護事業所や看護部門の効果的な運営管理方法について探究する。	
	看護政策論	(概要) わが国の看護制度や保健・医療・看護政策の変遷を学び、併せて戦後の保助看法の成立過程を考え、その後の法律や看護諸政策・施策の改正等のプロセスを理解する。また、看護政策決定過程と関連諸団体との連携・協働のあり方について学ぶ。さらに地方行政レベルの看護政策をめぐる諸課題、政策決定過程への看護職者の関与のあり方を理解し、看護政策・施策の事業化の企画・評価、プレゼンテーション等、一連の作業過程を演習等で具体的に学び、看護政策・施策の事業化の企画・評価が実践できる基礎能力を養う。 (オムニバス方式全8回) (21 上野昌江/2回) 地方行政レベルにおける保健・医療・福祉行政について、その課題と政策決定過程のあり方、及び医療制度における看護政策の現状と課題について講義する。 (24 山田和子/6回) 看護政策の意義や制度、概念、策定過程を始めとして、看護政策・施策に必要な能力や看護政策の課題と看護職者の関与のあり方について講義する。	オムニバス方式
	看護倫理	看護倫理の基盤となる倫理理論や倫理原則や諸概念を学び、人権擁護、知る権利、QOLの向上などの側面から、看護実践における倫理的問題へのアプローチや創造的な問題解決方法を探究することを目的とする。看護現場において倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行うために必要な知識を修得する。	
	地域政策論	様々な課題に直面している地域には、それぞれの地域における多様性に応じた政策が必要となっている。こうした地域政策については、従来の行政主体から市民主役のまちづくりへと重点が移行している。市民として、さらに地域医療従事者として地域政策の意義を理解し、最近の地域政策の動向について学ぶ。加えて、策定、効果予測、選択、実施、評価などの一連のプロセスを学び、持続可能性、公共空間、危機管理、情報公開、地域活性化等の観点から、地域の安心・健康のためのまちづくりや次世代育成に政策がどう活かされているかを考え、地域政策の具体的な展開方法について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	在宅看護学特論	健康障がいをもちながら地域で生活する人々と家族の実態を踏まえ、在宅看護の基盤となる理論を探究する。また、在宅看護を取り巻く社会背景と在宅ケアシステムの変遷および現状を学び、保健・医療・福祉の制度や社会情勢の動向を考慮し、施設と地域、臨床・在宅・施設の看護職、他職種との連携・協働について理解を深めることにより、高度なケアマネジメント実践の技術と在宅看護の役割を発展させるための能力を培う。	
	リスクマネジメント特論	リスクマネジメントとは、組織の損失を費用効率よく最小に抑えることをねらいとする経営のマネジメント手法のひとつである。この科目では、医療組織を取り上げ、医療組織におけるリスクマネジメントについて学修する。また、損失が起きないようにする発想、つまり安全を守ることや事故防止を含めた安全管理 (safety management)、医療の質の保証・質の向上をめざす質管理 (quality management) について学修する。	
	人間関係特論	人間の存在、存在の意味について理解を深める。人間関係に関連する諸理論を学ぶ。対人援助の理論を用いて、自己の看護を振り返り自己への気づきを高めるとともに、対象や援助者に生じる問題について検討し、対人関係を基軸とした援助方法を考察し、看護実践に適用する能力を高める。 人間関係について自己理解・他者理解をとおして考察を深める。また、社会の中の様々な人間関係や社会的相互作用について学び、他者やその人生に対する尊敬や尊重を身体知として認識する。 人間関係や社会的相互作用について考察し、今までの看護実践を再検討する。人間を人との関係で生き、成長する存在として捉え、人間関係を創る能力を養う。	
	国際看護学特論	世界中の人々の健康を維持・増進し、国際間の健康格差を改善するためにグローバルな看護の視点から課題を明らかにし、その課題に取り組む人々と協働できる専門的能力を身につける。また、異なる文化背景を持つ人々の健康支援に際し必要な知識・技術・態度について学び、対象者の持つ社会・文化的側面を尊重した支援のできる専門的能力を身につける。	
	産業看護学序論	全人口の半分以上は、働く人々であることから、どの看護専門分野であれ、患者／クライアントの多くは働く人々である。その働く人々への看護のためには、労働が健康に与える影響を視野に入れることが必要なことから、本科目では、産業保健・産業看護の理念ならびに職業性疾患・作業関連疾患とその予防対策における産業看護職の役割など、産業看護の基本的な知識・技術について学び、健康と労働の関連についての視点を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	産 業 看 護 学 領 域	産業看護学特論Ⅰ (産業看護概論)	<p>(概要)</p> <p>産業保健・産業看護の内外の歴史を振り返り、その社会的要請を明確にする。現状を分析しつつ、将来に向けて、産業看護職としての役割を明らかにする。また、産業看護の定義、産業看護職の職務など、産業看護の基本的内容を理解し、そこから産業看護職の支援のあり方、産業看護職に必要なコンピテンシーや技術について考究する。さらに、あるべき姿と現実のギャップを埋めるための方策について、自らの考えを構築できるようにする。</p> <p>(オムニバス方式全15回)</p> <p>(1 河野啓子 9回)</p> <p>産業保健・看護の歴史、現状、展望について概説するとともに産業保健・産業看護において特に重要な職業性・作業関連疾病の予防対策、労働災害防止対策における看護職の役割、そして産業看護教育の現状と課題について講義する。</p> <p>(13 畑中純子 6回)</p> <p>産業現場における経験を活かし、産業保健・産業看護の展開のためのシステムと産業看護管理について、また自らの専門であるメンタルヘルスケアに関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
		産業看護学特論Ⅱ (労働経済序論)	<p>(概要)</p> <p>産業社会・産業組織・産業経済の概念、成立過程および変遷と、労働・労働者の概念について学修し、働く人々が属している産業社会・産業組織がどのような課題を抱えているのか、産業経済の潮流はどうか、若年労働者、高齢労働者、女性労働者、外国人労働者などがどのような健康問題を抱え、どのような健康支援を必要としているのかについて理解する。また、事業者への健康支援のあり方についても理解するとともに、産業看護学特論Ⅰでの学びを深める。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(1 河野啓子 5回)</p> <p>産業看護活動にとって必要とされる労働経済の基本的な知識について紹介し、学生による「労働経済学」の輪読を通して討議形式で授業を進める。</p> <p>(13 畑中純子 8回)</p> <p>産業現場における経験をもとに職場における教育訓練や就職と採用の現状、そして高齢労働者をはじめ、様々な労働者が抱えている問題について紹介し、それぞれの項目について学生へのプレゼンテーションを課す。その結果を受けて討議形式で授業を進める。</p> <p>(29 麻沼賢彦 2回)</p> <p>労働経済学の専門家として環境変化と労働市場、経済変動と労働市場について講義形式で授業を進める。</p>	オムニバス方式
		産業看護学演習Ⅰ (産業保健基礎科学)	<p>産業保健・産業看護活動を進めるうえで基礎となるさまざまな知識、具体的には産業活動と環境保全、労働の生理的・心理的負担、人間工学の考え方と適用方法、じん肺・職業がん・騒音障害などの職業性疾病、高血圧・虚血性疾患・糖尿病などの作業関連疾患についての成因と予防対策について学び、事例検討を通して理解を深める。</p>	共同担当
		産業看護学演習Ⅱ (産業看護技術論)	<p>産業保健・産業看護活動にとって、特に重要なコミュニケーション技術、コーディネーション技術、保健面接技術、ケースワーク、グループワークについて、ロールプレイ、集団討議を通して、それらの技術を身につける。また、情報処理システムの構造・保健医療情報の特徴と種類・情報の処理・業務分析とシステム構築・情報管理とプライバシーの保護など、情報管理技術を修得する。</p>	共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	産 業 看 護 学 領 域	産業精神看護学特論Ⅰ (産業・精神保健)	メンタルヘルスケア及び精神看護学、産業精神保健領域における看護実践の基盤となる知識や背景を学ぶ。 精神保健・産業精神保健に関する諸理論と心の健康を理解する。産業精神保健、精神医療福祉の歴史の変遷をふまえ、産業精神保健や精神保健福祉制度や体制の理解を深め、現状をふまえながら、産業精神保健や精神保健福祉における施策や課題について検討する。また、メンタルヘルス不調、精神疾患の早期介入（相談・支援・治療）について理解し、効果的なアプローチの方法、地域連携、地域資源の活用について学ぶ。	共同担当
		産業精神看護学特論Ⅱ (援助論)	メンタルヘルスケア及び精神看護学、産業精神保健領域における理論や方法論を実践の場で適用する能力を高める。精神の健康状態を全人的に評価・アセスメントする方法及び実践のための看護アプローチの方法を学び、個人・家族・集団に効果的な支援を探究するとともに、対象の人権を擁護するための倫理的判断能力を養う。また産業場面における精神保健活動とリエゾン精神看護の役割と機能、具体的な実践についても学ぶ。様々な理論モデルを理解し、対象や現象に合わせたアプローチの理論的枠組みについて習得する。	共同担当
		産業精神看護学演習Ⅰ (アセスメント)	メンタルヘルスケア及び精神看護学領域における理論や方法論を基盤として、心の健康を支援するための看護アプローチについて探究する。演習を通して精神機能の評価方法やアセスメント技術を高め、看護アプローチを効果的に実施できる具体的方法について考察し、個人・家族・集団に対するメンタルヘルスケア及び精神看護方策の立案・評価能力を養う。	共同担当
		産業精神看護学演習Ⅱ (看護介入)	学生自ら関心のある精神看護の各領域において、看護実践活動を通して心の健康に対する支援の実際を学び、自らの研究課題について理論的・実践的な視点から探究する。また、学生は文献学習や実践を通して個人・家族・集団のいずれかを対象とした、産業・精神看護学領域における課題へのアプローチの方法について検討する。	共同担当

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践 専門 看護 学 領域	母子支援看護学特論Ⅰ (子どもと家族の発達理論)	胎児をふくめ、子どもと家族・母親を人格理論にたつて、生涯発達の視点からとらえつつ、それぞれの発達段階を構造的、力動的に理解する。人格理論を用いることで、子どもと家族・特に母親の発達、彼らを取りまく家族・地域・社会、活動意欲・志向性を連関させてとらえ、包括的に子どもと母親を理解する力を深める。そのことを通して、的確に子どもと母親のこころを理解し、子どものケア・子育て支援のあり方と研究課題を明確にする。	
	母子支援看護学特論Ⅱ (ヘルスアセスメント・支援論)	(概要) 母子支援看護学特論Ⅰを基に、多様化・複雑化する社会の変化に対応した理解力を深め、子どもとその母親・家族が必要としているケア・支援を包括的に洞察し、彼らの視点にたったケア・支援を提供する能力を身につけるために、子どもと母親、家族のヘルスアセスメント及び支援方法について学修する。 (オムニバス方式全15回) (2 鈴木敦子/4回) 対象者を包括的に支援するために必要なアセスメントの方法について講義する。 (4 山本 美佐子/4回) ハイリスク新生児と母親、家族に対するアセスメントの方法について講義する。 (5 赤井 由紀子/3回) 周産期の母親、家族に対するアセスメントの方法について講義する。 (6 中島 通子/4回) 親役割発達に焦点を当て、思春期における母性・父性の発達や親準備性獲得への支援方法について講義する。また、母性・父性発達理論や愛着理論と親子関係形成を踏まえた周産期における親子関係形成支援について講義する。	オムニバス 方式
	母子支援看護学特論Ⅲ (養育不全と家族支援論)	(概要) 子ども虐待に関わる諸理論を学び、その要因・機序を理解するとともに、子ども虐待の実態や動向、予防、対応システムの実際を踏まえ、子ども虐待の評価、対応、包括的な予防のためのアプローチについて探究する。加えて、現代社会における子どもと母親・家族を取りまく諸問題を国内外から取り上げ、その実態や背景、保健・医療・福祉・教育における対応や支援において看護者の果たすべき役割について考察する。 (オムニバス方式全15回) (2 鈴木 敦子/12回) 子ども虐待を理解するための諸理論を始め、虐待予防システム、虐待の実態や対応の実際と課題、倫理的課題への対応を含めた家族への支援方法について講義する。 (6 中島通子/3回) 子ども虐待と関連の深い子育てをめぐる課題(子育て不安、産後うつ病、DV)に関して、その実態と背景、倫理的課題への対応を含めた家族への支援方法について講義する。	オムニバス 方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践看護学領域 専門科目	母子支援看護学特論Ⅳ (母子保健・福祉)	<p>(概要) 母子保健及び福祉の変遷と現状を理解し、現行制度下における課題を明らかにするとともに、母子を支援するために必要な職種間の連携のありようを探究する。また、効果的な連携と支援のために看護職が果たすべき役割について理解を深める。加えて、母子及び家族が抱える健康課題への対応とヘルスケアシステムの実際と効果的な活用について探究する。</p> <p>(2 鈴木敦子) (4 山本美佐子) (5 赤井由紀子) (共同担当 5回) ヘルスケアシステムの実際に関する事例検討を行い、ヘルスケアシステムの諸課題や看護者の役割、関連諸機関及び職種、地域との連携のあり方について考究する。 (オムニバス方式 10回) (2 鈴木敦子/6回) 母子保健及び福祉の変遷と課題、社会福祉資源の活用を始め、ヘルスケアシステムの実際と活用方法、及びヘルスケアシステム作りや臨床と地域の連携、看護者の役割について講義する。 (4 山本 美佐子/2回) ハイリスクを含む新生児、乳幼児に関する母子保健対策の変遷と動向、課題、看護者の役割について講義する。また、発達障害のある子どもの特徴と倫理的課題への対応を含めた家族への対応について講義する。 (5 赤井 由紀子/2回) ハイリスクを含む妊産褥婦に関する母子保健対策の変遷と動向、課題、看護者の役割について講義する。また、社会的ハイリスク要因を抱える対象者のもつ健康課題の特徴と倫理的課題への対応を含めた家族への対応について講義する。</p>	オムニバス方式、共同担当
	母子支援看護学演習Ⅰ (支援技術論)	子どもと母親・家族の健康や発達、親子関係、社会関係を包括的に評価する方法を修得する。その上にたつて、健康に問題をもつ子どもや家族、子育てに問題を抱える母親・家族に対して、的確な支援について事例を通して総合的に追考し、子どもと母親・家族の視点からのケア・支援を具体的に提供する力を修得する。	共同担当
	母子支援看護学演習Ⅱ (研究方法)	子どもと母親・家族に関する国内外のさまざまなタイプの研究論文を通読・精読し、その研究の背景や動機、研究デザイン、結果・考察等をクリティックし、科学的な研究の条件と論文の執筆方法を修得する。加えて、研究論文の通読、精読・クリティックを通して、子どものケアと子育て支援の様相や新しい支援プログラム、取り組みを理解し、研究課題・実践課題を再整理する。	共同担当
	母子支援看護学実習	母子関係や子育て、とくに養育不全に関する総合的な知見と専門的な実践能力、およびケアや支援を創意工夫する能力、関係職種・関係機関の連携・協働、調整、倫理的配慮への対応もふくめた現場の状況に応じた適切な調整能力を、臨地・臨床における実践を通して養う。加えて、その実践を通して研究課題としてまとめる。	共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践看護学領域	急性看護学特論Ⅰ (危機理論)	危機状況下における人間の反応を総合的に捉える科学的アプローチの基盤となる危機理論、ストレスコーピング理論の原理や実践への応用について探求する。さらに衝撃的な体験に対しての回復過程やそれを促す専門的援助方法の事例検討を通じて、健康危機状況における人間の内的世界や人間存在価値や意味についても認識を深める。	共同担当
	急性看護学特論Ⅱ (フィジカルアセスメント)	クリティカルケア・集中治療を必要とする患者の生理学的変化、生活行動、機能回復の状況を把握する観察枠組みを理解し、高度専門職としてのフィジカルアセスメントの技法を修得する。さらに、客観的に開発されている臨床判断のためのガイドラインも活用して臨床実践能力を高める。	共同担当
	急性看護学特論Ⅲ (代謝病態生理と治療管理)	(概要) 重症・集中治療が必要な患者は医学的介入が重要となる。患者・家族中心の治療が進められるように治療環境を総合的に管理するための知識を教授する。主な授業内容として、重症集中治療室における安全管理、ME機器に関する基本的知識、治療に多職種が関与することの医療事故防止のシステム、身体侵襲が伴う創傷管理、血液・輸液療法等に関する知識や技術を修得する。 (7 藤村龍子) (18 杉崎一美) (共同担当4回) 治療環境を整えるための専門職としての感受性と実践能力、総合的管理の方法論を探究する。 (オムニバス方式11回) (30 宮内 正之 7回) 病態生理学変化に応じた治療管理の方法について講義する。また、臨床実践の場における課題解決の方略について検討する。 (31 近藤 潤夫 4回) ME 機器に関する基礎知識や安全管理の方法について講義する。また、医療機器の安全な管理をチーム医療の協働性の面から検討する。	オムニバス方式、共同担当
	急性看護学特論Ⅳ (援助関係論・家族援助論)	クリティカルケアを必要としている患者は、何らかの要因によって身体を構成する臓器や組織に障害をきたし、適切な医療が緊急に行われずと生命の危機・死に直結する状態である。この科目では安全・安寧を保証する立場から高頻度に発生する身体機能の恒常性調節を維持するケア及びチーム医療システムに関する最新の知見を探究する。さらに、個人とその家族の関わりについても教授する。	共同担当
	急性看護学演習Ⅰ (看護援助論・倫理的調整)	クリティカル状況における個人の意思決定・自律性に関わる命題について探求する。インフォームド・コンセントの概念や患者権利擁護(アドバカシー)、倫理的課題について医療者の役割と責務の立場から範例を通して学修する。特に、生命危機の状況における治療方針の意思決定プロセスに関与する看護の役割に関しても新しい知見や認識を深める。	共同担当
	急性看護学演習Ⅱ (安楽・緩和ケア援助論)	クリティカルケア状況にある患者は突然の発病や外傷、手術などによって高度な心身の苦痛を体験する。このような患者には生命の安全が優先されるが、同時に積極的な心身の苦痛緩和を図ることや身体機能を恒常性に維持することはきわめて重要である。この科目では生命のみならず人格と生活能力を保護し、安全と安楽・緩和ケアを保証する看護介入について探求する。	共同担当
	急性看護学実習	周手術期やクリティカルケア状況にある患者・家族に卓越した専門的な看護援助を提供し、看護ケアの評価ができるようになるために必要な論理的・実践的思考と専門的な看護技術／看護介入について臨床実習の場を通じて実践する。また、看護チームの中で問題解決のためにリーダーシップがとれるよう調整能力、教育・相談能力を主体的に修得する。さらに、患者・家族の体験している意思決定上の葛藤、倫理的課題に対するコンサルテーション能力を高め、重症・集中治療を必要としている患者・家族ケアに求められている卓越性や専門性について考察を深める。	共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践看護学領域 専門科目	慢性看護学特論Ⅰ (総合的理解)	慢性病をもつ人とその家族が抱える身体、心理、社会・経済的特徴から彼らが抱える課題や問題の多様性や多元性について理解し、個人または集団に対して最も適切な看護が提供できるように、理論や研究成果を活用し支援の方向性を探究する。	
	慢性看護学特論Ⅱ (心理・行動的理解)	慢性病をもつ人の心理及び行動について理論を活用して多角的に理解し、慢性病をもつ人が抱えるさまざまな慢性症状をコントロールまたは緩和する支援方法を探究する。さらに看護実践への応用について検討し、理解を深める。	
	慢性看護学特論Ⅲ (体制や制度)	慢性病をもつ人が、施設内および地域社会において長期療養や治療を継続しながら、社会参加を可能にするために活用できる社会資源として、制度や体制について学修する。さらに現状の制度上の問題点や課題を明らかにし、長期療養生活が安心して営めるようにするために必要な制度や体制について考究する。	
	慢性看護学特論Ⅳ (環境調整整備)	慢性病をもつ人々が置かれている治療環境の整備や調整および地域生活支援の現状と課題を明らかにする。対象者の QOL の維持や向上をめざす質の高い療養支援を継続的に提供する方策として疾病管理や地域医療連携、その他の資源について、地域の状況や仕組みを理解し、それらを質の高い有効な支援システムとし機能させる体制や仕組み作り等について探求する。	
	慢性看護学演習Ⅰ (慢性病の人のアセスメント)	慢性病の各時期に最適な看護を提供するために、各機能障害の程度や状態を観察し、生命や生活への影響を判断できる高度なアセスメント能力を養う。同時に対象者の心理、精神情緒状態、社会経済、文化的側面について理論や文献を活用し、対象者を総合的全身的に把握することにより適切な看護を計画、実践し評価するどの段階においても実践する高度なアセスメント能力を培う。	共同担当
	慢性看護学演習Ⅱ (支援技術)	慢性病をもつ人が病みの軌跡のあらゆる時期（急性期、安定期、不安定期、下降期、臨死期等）において、最良の療養を可能にし、QOLの高い生活を営めるように支援する。また複雑で解決困難な問題を抱えた対象者の問題解決への支援のために高度な看護技術を修得する。その支援結果を理論的根拠に基づき評価し、最良の看護が提供できる高度な支援技術能力を養う。	共同担当
	慢性看護学実習	慢性病をもつ人と家族の複雑な問題を抱える事例に対する実践をはじめとして、慢性看護専門看護師がもつべき臨床能力を培うことを目的として、専門看護師または高い実践能力をもつ指導者の下で実習をする。また看護のレベルを向上させるためにコンサルテーション、調整、看護師教育、倫理調整、研究等について実践し、卓越した看護実践能力を養う。	共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践看護学領域	老年看護学特論Ⅰ (老年看護学の専門性)	老年看護学の学問的基盤として、加齢に伴って生じる身体的、精神的、心理的、社会的変化や、加齢の生物学的理論、心理社会的理論を学習し、高齢者への基本的な理解を深め、高齢者の視点から状況を分析する姿勢や方法を学ぶ。また、高齢者を取り巻く社会的状況を理解し、老年看護学の専門性を探究し、老年看護における研究の現状も分析する。	
	老年看護学特論Ⅱ (老年看護学の実践)	老年看護学の実践について深く探究するために、高齢者を支えるヘルスケアシステムの構築、医療機関や高齢者施設における老年看護の実践、がん看護や End of Life、認知症など健康障害をもつ高齢者への看護介入のあり方を学習する。さらに、高齢者の保健、医療における倫理的課題を明確にして、老年看護の役割、独自性を明確にする。	
	老年看護学演習Ⅰ (高齢者への看護介入)	高齢者の多様な健康状態や生活の場に基く看護実践を具体的に検討し、高齢者への看護のアプローチ、家族や重要他者などへの支援について検討する。また、実践を通して高齢者を支える社会的環境、保健医療制度などの課題を取り上げ、高齢者の生活、健康を支える看護について将来の展望を明確にする。	
	老年看護学演習Ⅱ (老年看護学の研究法)	老年看護に必要な看護研究を実施するために、研究の基盤となる文献の critic を通したテーマの発見や研究過程の学習、質的研究方法を中心とした研究方法の学習などを深める。さらに、研究計画書の作成方法や研究デザインの方、研究実施の手順、データ収集方法などを検討し、研究実施に向けた具体的な課題を学習する。	
専門科目	基礎看護学特論Ⅰ (看護実践学の特質・看護の本質・対象)	人々の健康と福祉にかかわる看護実践学の特質について、看護の対象、看護の本質、ケア、ケアリング等の視点から理解を深める。 1) 看護の対象を総合人間学の視点から諸文献を通して理解を深める。 2) ケア・ケアリングに関する諸理論を概説し、ケア・ケアリングとは何かを具体的な事象と関連させながら理解をふかめる。また、ナイチンゲールの「看護覚え書」を読み、現代の看護と比較しながら、看護の本質について考察する。	
	基礎看護学特論Ⅱ (看護の諸活動と専門性、看護技術教育)	1. 人々の健康生活を維持・向上させる看護の実践、援助のあり方を、保健医療、福祉、看護を関連させながら概説し、看護の専門性、専門職性の視点から考察する。 2. 看護技術に関する研究文献をもとに、安全・安楽を提供する看護技術の人間科学を考察するとともに基礎看護教育における技術教育の課題を考察する。	
	基礎看護学演習Ⅰ (看護の特質に関する文献検討)	看護ケア・ケアリング、看護の本質・倫理に関する文献の講読および実践事例の検討をとおして理解を深め、実践への適用を議論する。 1) マスローのニード論に関する文献を読み看護への適用を考える 2) 看護ケア・ケアリングに関する抄読会を行う（各自が興味ある研究文献を選択しプレゼンテーションを行う）。 以上の研究文献検討を通して研究課題・研究方法を学ぶ。	共同担当
	基礎看護学演習Ⅱ (看護の諸活動・看護技術教育に関する文献検討)	看護援助技術、看護活動およびそれらの基礎教育に関する文献を購読し、実践の場における看護技術の評価の方法を理解するとともに、基礎教育における技術教育の課題、方法を議論する。 1)ヘルスケアにおける看護活動の専門性に関する文献を各自が選択し、プレゼンテーションを行うとともに、看護の専門性と他職種との連携のあり方を議論する。 2)看護基礎援助技術に関する研究文献の抄読会を行い、研究課題・文献を学ぶ。また、技術教育に関するカリキュラム、授業計画を作成する。	共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	課題研究	<p>(概要)            高度な専門性を有した看護実践者として知識の体系化と看護技術の開発を推進し、看護実践に寄与する研究能力を修得するため、各看護学専攻分野における個々の研究課題を系統的に探究し、倫理的配慮に基づいた適切な研究方法を用いてデータを収集し、客観的・科学的に分析し論文を作成する。</p> <p>(2 鈴木 敦子)            子育てにおいて難しい問題をかかえている母親（家族）と、その子どもを継続的に支援することを通して、子どもの成長・発達、健康状態、家族の状況を包括的に判断し、的確な問題解決能力を育てる。</p> <p>(7 藤村 龍子)            高度実践看護者として看護ケアの質向上に貢献できるために、クリティカルケアが必要な患者・家族または集団に対して卓越した看護実践する力（コンピテンシー）、看護職者の教育機能を促進する力、コンサルテーションの能力、保健医療福祉に携わる人々の間での調整能力、倫理的意思決定への支援等に関する研究課題を明確にし、科学的根拠に基づいた解決的アプローチによって検証する。</p> <p>(8 塚越フミエ)            慢性看護学領域において、自己の関心テーマまたは実習や演習を通じて発見した慢性看護の課題をその解決に最もふさわしい研究方法を用いてデータ収集、分析をし、課題研究レポートとしてまとめる。</p>	
専門科目	特別研究	<p>(概要)            看護研究の意義および特質を理解し、関心領域において、各フィールドでの実践や系統的な文献検索やレビューを通して自らの中心課題を明らかにする。さらに看護を研究する上での特殊性・倫理性を理解し、妥当性・信頼性の高い研究手法を選択し自らの研究課題への取り組みを具体化し研究計画書を作成する。研究計画に基づいた中心課題の解明を試み、その結果を論文としてまとめ、研究プロセスを理解する。</p> <p>(1 河野 啓子)            産業保健・産業看護に関する幅広いテーマのうち、学生が求めているテーマをとりあげ、研究指導する。</p> <p>(2 鈴木 敦子)            発達理論、家族理論、セルフケア理論、コーピング理論などを用いて、判断能力、応用能力、問題解決能力を育成するとともに、論文を作成する力を育てる。</p> <p>(3 宮崎 徳子)            精神障害をもつ対象に対して精神力動理論についての理解を深め、ストレスモデルを適応することの有効性について検討し、関連文献について思考を深め、精神障害を持つ対象に対する自己の視点を明確にする。</p> <p>(4 山本 美佐子)            子どものヘルスプロモーションを高めるための健康教育に向けての看護支援とプリパレーションの活用に関する研究指導及びハイリスク新生児の出生から成長・発達の諸問題を含め、子どもと家族への支援に関する研究指導の補助を行う。</p> <p>(5 赤井 由紀子)            調査研究の手法を用いて、周産期ケア、思春期から更年期・老年期にいたる女性の健康問題をリプロダクティブヘルスの視点でとらえ、課題の研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別研究	<p>(6 中島 通子) 妊娠、出産、育児の過程にある対象およびその家族における特定課題を抽出し文献検索、クリティックを実施する。さらに、実践力のあるケアの開発を目指し文献、事例を分析する。そこから、学生が選択する研究へと導き、一連のステップが踏めるように指導し修士論文の完成へと討議を重ね指導する。</p> <p>(7 藤村 龍子) 周手術期患者の安全を保証するための情報提供に関する研究、クリティカルケア場面における専門看護師の自律性と説明行為の特徴、クリティカルケア看護ケアの基盤となる臨床判断・臨床的意思決定プロセスに関する研究、看護診断—看護介入—看護成果のリンケージに関する実証的研究を通じて、クリティカルケア看護領域の専門職性や卓越性について探求する。</p> <p>(8 塚越 フミエ) 成人看護学領域において、自己の関心テーマについて文献検討により、探求すべき研究課題とその範囲を明確にし、その課題解明に向けた研究計画を立案する。計画に基づきデータ収集、分析を実施し得られた研究成果を修士論文としてまとめる。</p> <p>(9 濱畑 章子) 研究目的を明確にして研究計画書を作成し、実施手順やデータ収集、データの整理、分析などの課題達成のための研究過程のステップを踏み、客観的・科学的な修士論文を作成する。</p> <p>(10 野口 多恵子) 基礎看護学領域における課題（看護の特質—看護の対象、看護の本質・倫理—、看護の諸活動における専門性、他職種との連携、基礎看護教育：特に基礎看護技術教育等）を取り上げ、研究計画を立て、データ収集、データ分析、考察を行い、修士論文としてまとめる。</p> <p>(11 内藤 雅子) 受講生の発想を重視した研究のための講義を展開する。主として各種文献検索システムの利用の方法、情報の収集方法（各種統計資料の収集、調査による情報の収集）、情報の分析法、論文の作成法、発表の方法等について行う。</p> <p>(① 近藤 信子) 各自の研究課題を明確化し、内外の研究情報や文献レビューから専門知識を深め、目的にあった研究方法、結果の分析・考察の研究指導を補助する。また、スーパービジョンを受けながら自己の課題を明らかにし、自己理解と洞察を深める。</p> <p>(12 豊島 泰子) 健康障がいもちながら地域で生活する人々と家族の QOL が高められる支援についての研究指導を補助する。また在宅看護を取り巻く制度やケアマネジメント等について研究課題を見つけて研究する指導を補助する。</p> <p>(②後藤 由紀) 働く人々の健康の保持・増進およびQOLの向上に寄与するための産業看護に関する研究の指導を補助する。研究目的を明確にし、研究計画を立て、データ収集、データ分析、考察を行い、修士論文としてまとめる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特別研究	<p>(15 橋爪 永子) 入院中の子どもや健康障害をもちながら家庭で過ごしている子どもとその家族を対象として、子どもと家族の理解と支援に関する課題についての研究指導補助を行う。</p> <p>(16 牛之濱 久代) 周産期における母子支援について、母子とそれを取り巻く家族に関する諸課題の中から文献レビューやグループ討議を通して研究課題を選定する研究指導の補助を行う。選定した研究課題を解明するための研究方法を選択して研究計画を立案し、それに基づいて実施し修士論文を作成する。</p> <p>(17 大平 肇子) 女性のライフサイクルにおける健康課題およびプロダクティブヘルスに関する課題を取り上げ、主に実験的手法を用いて、女性の QOL 向上のための支援に関する研究指導の補助を行う。</p> <p>(18 杉崎 一美) 生命の危機状況にある患者・家族に関連する看護ケアの開発や看護モデルの構築を目指した研究指導を行う。また、高度先進医療に関連するケアシステム、倫理的課題などの諸問題や看護技術教育に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 岩本 淳子) 慢性疾患患者のセルフマネジメントに関する方策を探求する研究指導の補助を行う。セルフマネジメントは、個人能力の向上だけを限定してとらえるのではなく、慢性疾患の病態の特異性を理解し、合併症を予防する効果の高い生活環境の調整について考究する。</p> <p>(20 小笠原 ゆかり) 看護教育史および看護教育に関する文献のクリティークを行い、各自の探究すべき研究課題を選定する研究指導の補助を行う。選定した研究課題を究明するための研究方法を検討し、研究計画書を作成する。その計画に基づき、課題を明らかにし、論文としてまとめ、発表する。</p>	